

# 睡眠ブラキシズムの診断と咬合の再構築



日本歯科医師会  
生涯研修事業認定研修会

歯軋りは殆どの方が行なう、生理的な正常な現象です。しかし睡眠ブラキシズムは、現代人では一晩の睡眠中に20分から40分と報告され、人によっては2時間に達する場合もあるといわれています。睡眠ブラキシズムは歯の磨耗、歯の動揺、知覚過敏、楔状欠損、歯周組織の破壊、顎関節の機能障害、咀嚼筋群の過緊張など歯科医学的に多くの問題を惹起する要因と考えられています。その反面ブラキシズムは蓄積されたストレスを発散出来る有益な生理現象であることが証明されつつあります。よってブラキシズムに対して調和のとれた咬合を再構築することが重要な課題であると考えます。しかし睡眠ブラキシズムを想定したチェアーサイドでの顎運動診査と、睡眠ブラキシズム運動の歯の接触部位は異なる事が多く、実際のブラキシズム時の歯の接触部位を診査する事は従来の器材では困難でした。そこで睡眠ブラキシズム時の咬合接触パターンを睡眠中に違和感なく、装着できかつ的確にブラキシズム時の歯のグライディングを視覚的に記録し評価することができる装置を開発致しました。

今回の講演ではブラックスチェッカーによる睡眠ブラキシズムの診断法、グライディングパターン変更のアプローチについてご紹介致します。

## 講師



歯学博士 小野寺 寛司  
富士見歯科医院勤務(東京都板橋区)  
平成9年東京歯科大学卒業  
平成17年神奈川歯科大学博士(歯学)の学位受領  
日本矯正歯科学会認定医  
神奈川歯科大学大学成長発達歯科非常勤講師  
ウィーン医科大学矯正科元客員教授

### 他人事から自身へ

ブラックスチェッカーの最大の利点として、患者様自身が歯ぎしりをしているという事を実感して頂く事にあります。歯ぎしりを自覚している患者様は自身の歯ぎしりに大変不安を抱いており、歯ぎしりの説明、対応についての説明、コンサルテーションに大変熱心に聞き入る状態です。自分は歯ぎしりをしていないと思っている患者様への歯ぎしりに対する説明は果たして効果はあるのでしょうか？

### 内容

1. ストレスと睡眠ブラキシズム
2. 咬合の不調和が起こすもの  
歯の磨耗、歯の動揺、知覚過敏、楔状欠損、歯周組織の破壊、顎関節の機能障害
3. 睡眠ブラキシズムの診断法
4. 咬合の再構築方法  
ブラックスチェッカーを併用した保存的、補綴的、矯正的治疗へのアプローチ



<b>日時</b>	2010年11月14日 10時—17時	<b>参加費</b>	18,900円 モリタ友の会・大学 13,650円
<b>会場</b>	ベルサール八重洲 東京都中央区八重洲1-3-7		
<b>定員</b>	80名		
<b>申込方法</b>	下記ホームページ上でお申込下さい。 ※開催日の2週間程前にセミナーの詳細をご案内致します。		

<b>お問い合わせ</b>	株式会社ロッキーマウンテンモリタ セミナー係 〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町2-23 菅山ビル3F TEL:03-3251-4631 FAX:03-3255-4090		
	主催 株式会社ロッキーマウンテンモリタ セミナー案内は、ロッキーマウンテンモリタホームページでご紹介しています。アドレスは <a href="http://www.rmmc.co.jp">http://www.rmmc.co.jp</a> です。		